
人間ギリギリデン子ちゃん

自殺肢体

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人間ギリギリデンド子ちゃん

【NZコード】

N1875E

【作者名】

自殺肢体

【あらすじ】

電撃リトルリーグ応募作品。会話のみだが、短いんだし、こいつのもいいんじゃねえの?と思いましてな!

(前書き)

2000字を超えてますが、投稿したのはそれ以内に收まりました
よ。

「止めるー。その、動くたびに響く不快なモーター音をー。」

「それは無理です。人間で言えば、心臓の鼓動ですので」

「ああ……百五十万円も出して初めて買ったメイドロボが、こんな欠陥品だなんて！ しかも常にコンセントで電力を供給しどうないと動かないしー。」

「それは、オマエが私のような安物を選んだから悪いのです」

「『主人様って言えよー。くそー。なにが『百万+』で、寂しい貴方の永遠のパートナー』だよー。名前すら覚えてくれないしー！」

「あんまり怒ると、歯の間から毒液が出てきますよ」

「『恐い』と『いたずら』（虫歯あるし）。……まあいい。『テン子、メシ作ってくれー。』」

「それは無理です。コンセントの長さ、七十センチしかないですか
ら、お所まで届かせん。こりゃ狭い四畳半とはいえ、無理ッス」

「狭い言つなー。それに、お前……なつ、七十センチ？ ありえね
え……」

「五五十万じゃ、そんなもんです。自分で作つて下さいな。ファイ
ツー。ファイツー。」

「ナニと戦えつてんだよ……。まったく、クソの役にもたんぱくトナーだな！」

「まさに『看板に偽りあり』ですね」

「自分で言つた！　あ～あ。

外見と声が好みじゃなかつたら、廃棄処理してるとこりだぞー！」

「……私にかかれば、人間の頭なんぞ、トマトのよつたモノなのだ……」

「……アハハツ！　冗談に決まつてゐるじやんー（恐いよコイツ……）」

「

「そうですね。オマエみたいなもん、私のようなロボット女以外に相手にされるハズないですしね。Hへへ！」

「愛らしい笑顔と声で、ヒドいこと言つヤツだな！…………とこりで、
+ で五十万も取られてるんだけど、どんなオプションが付いたんだ？」

「『ワードローブ』機能

「それ、オプションなのー？」「あ、あと一万だせば、充電機能が付いて、コンセント無しでも活動できたんですけどね」

「無理だよ！　もう、全財産五十円しかないし！　くそお……クレームでも付けないと気が済まんー！」

「……ハア。お金をかければ色々アップグレードできるって、サポートのお姉さんに優しく諭されちゃったよ……」

「ウフフー。恥と引き替えに手に入れた情報ですね。ウフフー。」

「嬉しそうな顔してんな！……ふん、よし。じゃあひょっと揉ませてもらおうか？もちろんこじよなー！」

「どうぞ」

「……え？ か、硬い？！ なに」「ノー サギよ、いとなのーー。」

「思わずおねH言葉になるほど驚いたんですね。でもやつぱつオマエ、それ田的で……」

「当たり前だ！ いかがわしい田的でメイド口ボを買わずしてなにが青年男子かとー！」

「ムダに男らしげですね。でももつとお金かけないと、私は人間に近い存在にはならないですよ」

「柔らかいオッパ……いや、肌には幾らかかるんだよ？」

「五十ないし一千万。」

「幅、ありすぎだろ！……五十万なら、最短あと五、六ヶ月は貯金しないといけないのか……」

「月給十五万円のオマエにはシラーですよね。てへへー。」

「勝手に決めんな！ 手取りで十八万だ！ ボーナスは二十万！」

「まあ、オマエがどう人間でも、私のマスターであるワケですし、めんどくさいけど死ぬまで愛し続けてあげますよ。一応」

「快・不快な言葉が混じりあって、どう反応すればいいのや？…。とりあえず喜んでおつか。ワーウー！」

「ワーウー！ だって、ウフフ！ 長ネギみたいな人ですね」

「どういう例えなんだ？ ワケわからん！ もういい、寝よう。なんか疲れた……」

「それでは、私も」一緒に……。服、脱ぎますから……」

「え……おー、なかなかセクシーな下着姿、じゃん……。でも、モーターチ音がつるをくして眠れんし、電気代も気になるから、コンセント抜くよ！」

「……スー、スー」

「……寝てるよ、ロボットのくせに。無駄にリアルな機能だな

「……ああー もづくにソースなんか掛けちゃダメ……世界が滅亡

……スー」

「じつこつ夢見てるんだよ。まあいい、コンセント抜いて、と。おやすみなさい」

「……ん？ ギヤア！ なつ、なにしてんだお前！」

「田覚めのキスですけど？」

「冷たくて硬いから、鉄でも食わされてるのかと思ったつーの…。というかなんで動けてる？！」

「充電機能はなくとも、一分程度は動けますので。でも、自分で口ンセント差してはいけないようプログラムされてるので、早く…。」

「……はい、差したよ。でもテン子、田覚めのキスはマジでやめてくれー。心臓に悪い！」

「臆病な長ネギですね。そんなことで、まともに人間社会に適応できてるんですね？」

「いいや、あんまり……」

「大丈夫。私が居ますから。とりあえずアップグレードの為の貯金をしましょう。堅実に、です。借金はダメ！」

「は、はい」

「私が、金銭の管理をしましちゃ。オマエは、普通に働いておけばよろしい。オールオッケー？」

「なん……いや、それでやつてみるか。お前の永遠のパートナーつぶつを見せてもらひつけよ…」

「お任せ下さい、マイ・マスター・オマエ。」

「……ハア。まあいいや、ようじく頼むよ、デンドン子。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1875e/>

人間ギリギリデン子ちゃん

2010年10月20日18時53分発行